

播磨灘広域共同調査（抄録）

（平成17年度川上から川下に至る豊かで多様性のある海づくり委託事業）

加藤 慎治・萩平 将・平野 匠

本調査は養殖魚類及び貝類の大量へい死を引き起こす *Chattonella antiqua* や *Heterocapsa circularisquama* 等に代表される有害赤潮種の増殖と環境要因との関係を調査・検討し、効果的な赤潮モニタリング及び予察技術の確立に資するため、平成17年6～10月の間、特に赤潮頻発期である7、8月を中心に兵庫県、岡山県、香川県と共同でプランクトン出現調査、海洋環境調査等を実施したものである。

平成17年度における徳島県担当水域（播磨灘南東部（内の海を含む。））での有害プランクトンの出現状況について取りまとめたので、その概要を報告する。なお、詳細については「平成17年度川上から川下に至る豊かで多様性のある海づくり事業 赤潮等被害防止対策事業報告書」を参照されたい。

有害赤潮プランクトンの出現状況

Chattonella は調査開始当初から出現し、本県沿岸の播磨灘南部でも出現がみられたが細胞数は少なく漁業被害も発生しなかった。

Karenia mikimotoi は7月中旬～8月中旬にかけて発生がみられたが、期間中1cells/mlを超えることなく低密度の出現に留まり赤潮を形成しなかった。

Cochlodinium polykrikoides は7月中旬から出現が確認され、8月上旬には最高細胞数8.59cells/mlまで増加したが、その後速やかに減少し終息した。

Heterocapsa circularisquama は播磨灘では期間を通じて出現がみられず、内の海で9月中～下旬にわずかに出現が確認されたのみであった。

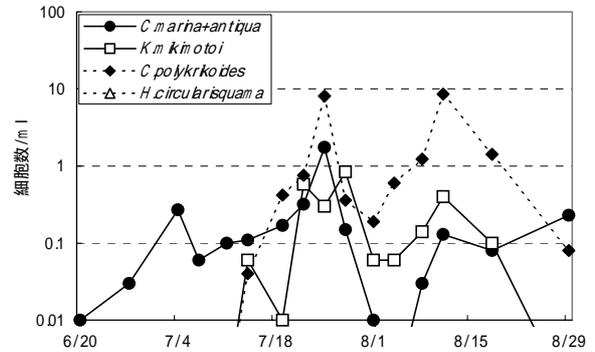


図1 播磨灘における有害プランクトン細胞数の推移

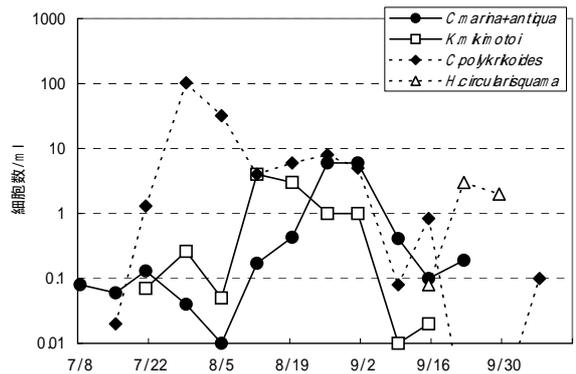


図2 内の海における有害プランクトン細胞数の推移